

数字で知る デフリンピック

第1回から

100

周年を記念する大会

パラリンピックより36年も早く始まった歴史ある大会。日本では初開催です

21
競技

●競技一覧

陸上競技／バドミントン／バスケットボール／ビーチバレーボール／ボウリング／自転車競技(ロード)／自転車競技(マウンテンバイク)／サッカー／ゴルフ／ハンドボール／柔道／空手／オリエンテーリング／射撃／水泳／卓球／テコンドー／テニス／バレーボール／レスリング(フリースタイル)／レスリング(グレコローマン)



デフリンピックとは

パラリンピックが身体や知的など、さまざまな障害のある選手を対象としているのに対し、デフリンピックは、「きこえない・きこえにくい」方を対象としたオリンピックで、4年に1度開催しています。

参加する国・地域
70-80
か国・地域

参加選手
約3,000人

前回の日本のメダル
30個

さまざまな言語や文化をもつ国や地域が集まります

スタッフを含めると
約6,000人が参加します

金12個、銀8個、銅10個の過去最多のメダルを獲得しました

競技中の 注目ポイント

POINT
1

競技中は補聴器などの
聴覚補助機器の使用は禁止

全ての選手が「きこえない」という
同じ条件の下で競い合います。

工夫の例



▲審判の合図は旗やジェスチャーで

POINT
2

独自の競技スタイル

手話言語や視覚的な合図を活用した独自の競技スタイルが展開され、ルールや運営にも工夫が見られます。



▲ランプでスタートを知らせる

中野で
開催

観戦
無料!

総合体育館で テコンドー競技 を応援しよう

スポーツ活動係／7階
☎(3228)5586 FAX(3228)5662

当日直接会場へ。

☆時間などについて詳しくは、区HP

をご覧になるか、スポーツ活動係へ問い合わせを

会場 総合体育館(新井3-37-78)

☆館内は土足禁止。室内履き持参



▲区HP



▲こちらから
ご覧になれます

TOKYO 2025 DEAFOLYMPICS公式YouTubeチャンネルで全ての競技を配信します

2~3ページ上段の掲載写真全て ©全日本ろうあ連盟



見て、感じるデフリンピック

東京2025デフリンピック 11.15 土 - 26 水

中野区ゆかりの選手 インタビュー

壁を越えて、世界と戦う

デフハンドボール日本代表

おおにし やすあき
大西 康陽さん

中野区在住。生まれつき耳が聞こえない。幼少期から「聞く」「話す」訓練を重ね、現在は補聴器を使いながら主に口話でコミュニケーションを取る。

デフハンドボール日本代表では、唯一の左利きコートプレイヤー。気持ちのこもった鋭いショットと粘り強い守備で攻守の要を担う。



デフハンドボールとの 出会い

小さいころから体を動かすことが大好きで、いろいろなスポーツに親しんできましたが、大学3年生の時に難病が発覚。これまで当たり前のように続けてきたスポーツに大きな壁を感じるようになり、競技とは離れていました。

でも、社会人になってから、ボランティアとしてデフハンドボールサークルに関わる機会があつて。仲間と一緒に過ごすうちに、自分も選手としてプレーしたいという思いが強くなっていきました。そんな時、初めてハンドボールのプロリーグの試合を観戦。全力で熱いプレーをする選手たちの姿に心が動かされ、選手になることを決意しました。

音のない世界での 戦い方に注目

今回のデフリンピックでは、手話言語通訳者がいたりタイムアウトの回数が異なったりといった特別なルールはありますが、基本的には普通のハンドボールと同じ。でも、音が聞こえない分、審判やボール、相手の動きなど、全てを「目で見て」判断して動きます。プレー中に視野を広く保ち、どれだけ多くの情報をキャッチできるかが、勝負のカギです。

また、チーム内のコミュニケーションは、基本的に手話やサイン。音のない世界だからこそ生まれる駆け引きや選手間の連携プレーにぜひ注目してください。



全員が「主役」 肌で感じて楽しんで

障害や病気が原因でスポーツに壁を感じている方が、僕のプレーをきっかけに一步を踏み出してくれたらうれしいで

す。今回のデフリンピックは、身近な場所でデフスポーツに触れられる貴重な機会。中野区でもテコンドーの競技が開催されますが、競技に詳しくなくても、実際に肌で雰囲気を感じてみてください。

選手やスタッフだけじゃなく、観客のみなさんもデフリンピックの「主役」。100周年を記念する特別な大会と一緒に盛り上げましょう!

次ページでは、手話言語通訳者の方や聴覚障害のある方の声を紹介します